

すたんどばいみー2012 年度活動報告

◆小学生教室

活動日数:4/7・14・21・28・5/19・26・6/2・9・16・30・7/7・14・21・28・8/4・18・25・9/1・8・15・22・29・

10/6・13・20・11/3・10・17・24・12/1・8・22 回数:32回

対象者延べ:250人 スタッフ延べ:142人 合計:392人

・2012年の活動

小学生教室では学習補充と定期的に集団づくりを行うためのゲームを設ける形で教室運営をしてきた。主に低・中学年の子が多く参加しており、その中でも3年生の子が多い。

3年生の中には、我が強い子などがいて、集団でみていくことは厳しく個別にみていた。しかし、クリスマス会を通して、一人ひとりの子どもの特徴をつかむことができ、子ども同士の関係づくりにシフトしていくことにし、学年単位で勉強を見ることに決めた。

家庭訪問で対象としている小学1年生のTが継続的に教室に参加していた。一年間を通して、Tの家庭訪問と教室での支援を行った成果が目に見えるようになった。

一方で、2011年度に支援級から普通級に通うことになったSも毎回教室に参加していた。Sの担当のスタッフは、Sの身の回りの物事の流を一緒に整理することを心掛け、Sが普段の教室で積極的に話が出来るように言葉掛けを行った。

イベントに関しては、2012年度以前の高学年と低学年を混ぜた遠足に対し、2012年度は高学年と低学年に分け、「学び」を取り入れた遠足を行った。

・次年度に向けての課題

高学年の子の参加が少ないため、高学年のSに横の関係を作ることが課題である。Sの同学年の子を、教室に参加するように呼びかけ、Sが同学年の間でも前に立てるような場を設定していく。

学習補充が形式的になりすぎてしまい、子どもの継続的な参加がみられないという課題があるので、2013年度は2か月に1回の頻度で、ものづくりや小イベントなどをスタッフが企画して開催していく。新規スタッフの高校生に対して、勉強の教え方などをうまく教えることができなかったため、Ed.ベンチャーの小学校の先生に依頼し、スタッフの勉強する会を設ける。イベントに関しては2013年度は2012年度の反省点を踏まえ、イベントを意味あるものにしていく。

2012年度はスタッフの人数が少ない中で教室の運営をしてきており、ミーティングが疎かになる時もあったので、そのようなことがないようにしていく。

◆家庭訪問

活動日数:4/4・11・18・25・5/2・16・23・6/6・13・27・7/4・11・18・25・8/1・8・15・22・29・9/5・12・19・26・

10/3・10・17・24・31・11/7・14・21・28・12/5・12・19

回数 35回 対象者延べ:46人 スタッフ延べ:28 合計: 74人

・2012年の活動

小学生教室に参加している小学校1年生のTの父親が、Tの学校の先生に支援級を薦められていること

をすたんどばいみースタッフに相談するということがあった。その事を受け、スタッフの間で T への今後の対応について話し合った。その結果、父親に”そもそも支援級とはどういうところなのか”を話す場を設けた。その後の小学生教室内で、T の学力面での問題や人の名前をおぼえられないということが分かり、家庭訪問をはじめた。支援級については、通級させないということを学校に言っていこうと父親と話していたが、帰国していた T の母親が日本に戻り、父親が知らない間に学校の先生と支援級について話をしていた、1年間支援級に通級することとなった。家庭訪問の中では、学校のことについて心配している父親と話したり、T の現状について一緒に考えたりし、父親と一緒に T の現状・問題整理することを行った。

T の支援では、ひらがなや足し算引き算といった内容や、T に言葉掛けを沢山するなど、会話することを重視してきた。

一年間の活動を通しての成果は、T が自分のことを伝えられるようになったり、語彙が多くなったことである。また、足し算・引き算は当初、数字の書き練習や数え方からスタートしたが今では 20 以上の数も数えられ、ひっ算の計算まで出来るようになった。しかし依然として、ひらがなを読み書きできるようになるという目標には到達出来なかった。ひらがなは部分的であれば書けるようになり、ヒントを出せば五十音を音読できるようになった。

・次年度に向けての課題

T の家庭訪問を一区切りとし、今後も T が教室に継続的に参加できるようにする。一方で、一年間限りの支援級に通級することが、2013 年度も継続するののかについて、父親と話しながら考えていく。T の勉強面では、T の学習進度に合わせて、目標を決めてから学習補充を行っていくようにする。

家庭訪問の中で高校受験を控えている T の姉が、進路も決まらずに浮遊しているのを目の当たりにしたことから、1 月からの家庭訪問は T の姉の活動にシフトしていく。

◆音楽教室

活動日数:4/13・20・27・5/11・18・25・6/1・8・22・29・7/6・13・20・27・8/3・17・24・31・9/7・14・21・28・

10/5・12・19・26・11/2・9・16・23・30・12/7・14・21 回数:34 回

対象者延べ:142 人 スタッフ延べ:129 人 合計:271 人

・2012 年の活動

小学校高学年の子どもを中心に教室を開催してきた。高学年の子どもたちが定期的に教室に参加できることを目標に、子どもたちがやりたいことを一緒に考え、実行する動きを作ってきた。また、家庭訪問で対象としている小学生が教室に参加ようになり、高学年の子が低学年の子の面倒を見たりする動きがあった。

教室の中では学校の勉強を行いながら、8 月に計画していた劇の発表に向けてリコーダーを練習し、小学生と劇の準備してきた。後期からは、子どもたちからピアノをやりたいと声が上がリ、教室のなかで再度ピアノを行うことにした。小学生教室で、12 月にクリスマス会があることから、イベントでの発表に向けて練習を重ね、クリスマス会でピアノと歌の発表をすることができた。

・次年度に向けての課題

家庭訪問で対象としている小学生が継続的に教室に参加できるようにすること。また、継続して教室を開催していく中で、小学校高学年の子どものニーズを拾い、高学年の小学生が参加できる教室にしていこう。

◆小5・6教室

活動日数:0 回数:0回

対象者延べ:0人 スタッフ延べ:0人 合計:0人

・2012年の活動

2012年度は、すたんどばいみーに参加している小5・6年生の教室への参加はなかった。そのため、10月にEdベンチャー側の小5・6教室担当者とすたんどばいみーで小5・6年生の様子について話し合いの場を設け子どもの参加が見こめられない事を伝えた。話し合いの結果、今後も教室を開催していき、ばいみー側では、新規の子どもがいれば教室に誘っていくこととなった。

・次年度に向けての課題

小学生教室に参加している小学5年になる子どもに声をかけ、小5・6教室に接続できるようにしたい。

◆中学生教室

活動日数:4/10・17・5/1・8・15・22・29・6/5・12・19・26・7/3・10・17・24・31・8/7・14・21・28・9/4・11・18・25・

10/2・9・16・23・30・11/6・13・20・27・12/4・11・18・25 回数:37回

対象者延べ:293人 スタッフ延べ:209人 合計:502人

・2012年の活動

今年度の中学生教室では、まず3年生を集めることから教室運営をした。今の3年生は小学生の時からすたんどばいみーに来ていたが、中学1年生になってから部活や周りの環境が変わった事によって勉強をしなくなり、連絡も取れなくなった。元々勉強が苦手な生徒達で、今年度の受験制度も変わってしまう事もあり、毎年行っている受験合宿までにはなんとか集めたいと考えていた。そこで中学生教室では、キャンプやハロウィンの大イベントからスポーツなどの小イベントを開催して3年生達を呼び集めた。イベントには来たがその後の教室には繋がらず、結果的にはイベントだけの繋がりになってしまった。次にイベントではなく、高校ガイダンスといった形で生徒達の家まで行き呼び集めた。その結果、当日には沢山の3年生がガイダンスに参加し、日常の教室にも繋ぐことが出来き、目標にしていた合宿にも当時すたんどばいみーに来ていた3年生が参加をするようになった。

中学1・2年生は、学校の宿題やテスト期間でのテスト勉強をみたりした。またディベートを行い、「女性と男性どちらが有利か」などのお題を出し、生徒達の意見が飛び交うような場を作れ、いつもとは違う教室を作る事が出来た。

女子生徒の間では、家庭の事情により異性を求めてしまう傾向があった。実際には、インターネット上のSMSを利用して出会っていた事が発覚し、その子には教室以外で場を設け、どれだけ危険であったかなどの説明をした。

・次年度に向けての課題

試験に落ちた子へのフォローを視野に入れつつ、教室を開催しなければならない。

2012年度の2年生には、進級するにあたり、生活面や勉強面での不安を聞きながらアドバイスをあげること

が必要である。一方で、女子生徒には 2012 年度の異性を求めるような事にならないように対応をしていく。3 年生は、勉強が極端にできる子とできない子の差が激しいので、そのバランスを考えた教室運営を行っていく。

◆高校生教室

活動日数:4/11・5/2・9・16・30・6/6・13・20・7/4・11・18・25・8/1・8・15・22・29・9/5・12・19・26・

10/3・10・17・24・31・11/7・14・21・28・12/5・12・19 回数:33 回

対象者延べ:95 人 スタッフ延べ:50 人 合計:145 人

・2012 年の活動

4 月から 11 月までの高校生教室では、主に各自が自分のやりたい勉強をしていた。三学期制の高校生がほとんどのため、テストも多いので高校生教室の時間を使ってテスト勉強をした。そのため、どうしても個々の勉強に偏ってしまい、高校生教室でイベントを開催する事や何かの勉強を一緒にする事は難しかった。また、高校生が多く集まれる時間でもあったため、高校生教室の時間を分けて前半を勉強の時間にし、後半を他の教室のミーティングの時間にする事もあったので、高校生教室として何かやる事を難しくしていた。それでも、高校生の中で一緒に何かをやりたいと意見が出たので話し合った結果、12 月から英語の速読の教材を使って英語を勉強する事にした。12 月中もテストがあり、一回しか開催出来ていないが、勉強していく方法などを確認する事が出来た。

・次年度に向けての課題

2012 年度の中学 3 年生は、工業高校を受験する生徒が多く、工業の専門的な授業や資格を受けたりすると思う。そのため、工業の勉強や資格などを教えられる先生を教室に呼び掛け、その子達の勉強をみて欲しいと考えている。

夏休みには、運営メンバーで社会科見学として広島に行く事を計画している。

◆母国語教室

<中国語教室>

活動日数:5/19・26・6/2・9・16・23・30・9/8・22・10/14・11/25・12/16 回数:12 回

対象者延べ:43 人 スタッフ延べ:25 人 合計:68 人

・2012 年の活動

今まで教室に参加していた小学生が 4 月から習い事や親の都合で教室に来なくなった。また、スタッフの就職や帰国などで少なくなったことがあり、小学生を呼び掛けていくことはできなかった。

帰国からスタッフが戻ってきた後は、中学生 1 名とスタッフ 1 名で教室を開催してきた。参加者の中学生が学校の勉強についていけないことから、活動の中心も母国語から学校の勉強にシフトしていった。その後の教室は定期的に関開形式ではなく、参加者の中学生の予定に合わせて教室を開催し、主に中学生の学校でのいじめ問題や家のことなどについて話をを行った。

・次年度に向けての課題

教室を定期的に開催できていない。次年度から、今参加している中学生をもっと巻き込んだ教室開催をし、学習補充をしつつ、母国に関することを調べたり勉強したりしていく。

<ベトナム語教室>

活動日数:10/20・11/17・24・12/1・9 回数:5回

対象者延べ:9人 スタッフ延べ:5人 合計:14人

・2012年の活動

ベトナム語教室では、教わる側の高校生スタッフ2人と教える側の大学生スタッフ1人の計3人で開催している。来ている2人は、ベトナム語が全く読めないなので基礎から勉強を行っている。3人とも教える事も学ぶことも初めてなので、お互いに勉強方法を学び合っている。

教室運営では、開催日が学校の行事と重なっていたりしたため、開催できないことが多かった。その開催できない分を日曜日に行った。

・次年度に向けての課題

教室運営で開催できない分は、他の日にまわすなど母国語の勉強日を確保していく。学習内容は、母国語だけではなく、ベトナムに関する学習を設ける。

<カンボジア語教室>

活動日数:0 回数:0回

対象者延べ:0人 スタッフ延べ:0人 合計:0人

・2012年の活動

活動は、実施していない。

・次年度に向けての課題

下福田中出身のカンボジア人の大人が、母国語をやりたいとの事になり、現段階では2013年1月から隔週で開催する予定である。

■東日本大震災陸前高田の子ども支援

活動日数:3/3・4(花巻温泉旅行)・5/12・13(大和祭り)・8/30(下福田中・小友中学校交流会)

・2012年の活動

(花巻温泉)モビリア避難所ですたんどばいみーの活動に毎回参加していた中学生4名を対象に花巻温泉旅行を実施した。旅行の目的は、2つあった。一つは、中学生のAの不登校が続いているためその様子を知らためと、彼女が再び学校に通えるための関係作りである。二つ目は、その中学生Aの「お風呂問題」があ

り、一人でお風呂に入れる習慣を身につけることにあった。中学生 A が学校に行けなくなってしまった理由の一つとして、彼女が通う支援級での取り組みに違和感を持っていたためであった。そのため、その違和感を中学生 B が校長先生に代わりに伝えるような作戦をとることにした。旅行後、中学生 B の行動により中学生 A の違和感が学校に伝えられ、新学期から中学生 A の周りの状況が変化し A は、再び学校にいけるようになった。またお風呂の件も A は、一人で行えるようになった。

(大和祭り)モビリア避難所での震災支援活動に参加していた中学生に神奈川に招待したいと思っていたため、大和市民祭りで一緒に屋台で焼きそばやフランクフルトを売りながらすたんどばいみーの活動を紹介することができた。慌ただしい 2 泊 3 日となってしまったが、来てくれた中学生が楽しそうだったので招待してよかった。

(交流会)交流会ですたんどばいみー側の交流の形として外国人である自分たちの存在経緯を文章で発表した。「相手の声や言葉を聴く」という新しい形での交流会によって三者がお互いの事を知るための最初の一步になれた交流会になったと思う。

・次年度に向けての課題

2012 年度の 3/13 に彼女らの卒業式があるので、中学校の校長先生に許可を得る事ができれば、式に参加できるようにしたい。

■運営委員会

活動日数:4/14・21・28・5/19・6/2・16・30・7/7・14・28・8/4・18・9/8・9/22・10/13・11/10・24・12/8・22

回数: 19 回

スタッフ延べ:159 人 合計:159 人

・2012 年の活動

前期の運営委員会は、普段の教室よりもイベントに関しての議題が多かった。話し合いの中でもイベントに関する事に時間を割き、イベントについて重点的に行うようにした。

後期からの運営委員会は、毎回の議題に各教室の報告を入れ、子どもの変化や問題点を運営委員全員で議論できるようにした。

外部からの依頼等の話し合いは、「日本大学からの講演会」や「下福田中と小友中とすたんどばいみーの交流会」、「とよなか国際交流会のワークショップ」などがあった。

・次年度に向けての課題

高校生や各教室のスタッフが話しやすい場や問題点を議論するために効率よくするにはどのようにしたらよいかを考え、実行することが課題である。

新規高校生を運営メンバーとして巻き込んでいくことを視野に入れながら、2013 年度の組織を考えていかなければならない。